



Subaru

男声合唱団

ニュースNo.692

19. 6. 4

6月2日

# 大阪のうたごえ 70 周年「創作フェスタ」 開催！大阪で生まれたうたごえ交流！

□6月2日（日）13：30～16：00 守口文化センター・エナジーホールで大阪のうたごえ創立70周年記念「創作フェスタ」（大阪のうたごえ協議会主催）が開催されました。大阪で生まれた創作曲を歌い交してお祝いしましょう！と、当日は400名余りの大阪のうたごえの仲間が集まりました。



□<第1部 あゆみ>では、70年のさまざまな大阪の運動と結んで創られ、歌われてきた曲11曲が紹介されました。「昴」は100名の混声のなかで（昴・レインボウ、コスモス、奈良紫金草、関西紫金草、とよの、吹田おらコン、河南混声のうたごえの仲間）「地雷ではなく花をください」（本並美德作曲・門倉さとし作詞 1998年創作）をうたい、男声合唱で、「労働者はいいぞ」「どっこい俺の職場」を、そして、4曲目に混声で、大阪市役所の労働者の思想信条の自由を守るためのたたかいを励まし、力づけた「こころひとつに」（2013年創作）を歌いました。女性合同では、2019年1月東京のうたごえ祭典でも女性合同で歌われた「いとし子よ」（1986年原田芳雄作曲 小森香子作詞）が80名の女声で歌われました。



<第2部 いま>では、1月の東京のうた



ごえ祭典「オリジナルコンサート」で創作し、推薦され発表された5曲が歌われました。パレアナ(千秋&二三)が「きょうも働き歌ってる」(千秋昌弘作詞・森二三作曲)を、「世の中変われと 今日 私 は働き歌ってる」と、千秋さんのソロが響き渡りました。



(2014年 たかだりゆうじ作曲 本並美德指揮)も会場のひとびとに感動を与えました。<フィナーレ>で「大阪のうたごえ70周年記念創作入選曲「Link 手をつなげば」(前田光男作詞、原田芳雄作曲)を全員合唱して「創作フェスタ」を終えました。昂の参加者は全33名でした。

<第3部 これから ~春を呼ぶうたごえから>では、「新しいうたごえを大阪から!大阪のうたごえの創作活動を活性化させましょう」と、2017年から「大阪のうたごえ創作センター」が活動を再開し、いろんな取り組みをしていることに参加を!と。そして、新しく最近創作された7曲が歌われました。福島原発を歌い上げた「街の灯」

## 「見上げてごらん」をアカペラ

5月31日

## で集中レッスン! 嶋本晃音楽教室開講



□ 5月31日(金)18:00~20:30 昂定例レッスン・嶋本晃音楽教室が開催されました。佃さんの体操のあと、嶋本先生の入念なヴォイストレーニングがあり、引き続き、今日は嶋本先生の音楽指導で、アカペラ曲「見上げてごらん夜の星を」(永六輔作詞・いずみたく作曲、編曲者不詳・男声4部合唱(昂13回コンサート予定曲))を練習しました。無伴奏の男声4部で、短い24小節の「見上げてごらん」の曲を、アカペラで歌うレッスンの基本からレクチャーしてもらった形で、今日の定例レッスンのほとんどの練習時間を使って、見事なハーモニーの4部合唱へと仕上げていきました。アカペラで歌うことの意味を学んだ有意義なレッスンとなりました。ピアノ伴奏(ヘルプ)は森二三さん。最後に、本並先生の指揮で、「日々草」を合わせました。参加者は全36名(嶋本先生を含む)でした。



報告事項・連絡事項

(1) 新しく若い仲間・山口さんが鼻に入団されました！

5月に見学を兼ねてレッスン日に来られていましたが、6月から正式に鼻に入団されました。大歓迎です。自己紹介を兼ねて、あいさつ文を書きいただきました。(バリトン所属)

入団に当たって 山口重光

昭和28年生まれ(満66歳) 西宮市在住

私は山陰の雪深い寒村で生まれました。父は芸達者な人で、民謡・箏箏(ひちりき)・三味線などやっておりました。お世辞にも声質は良くありませんでしたが、味のある歌い方であったのを子供ながら覚えています。私の悪声は父親ゆずりであったと思っております。かつて、「歌は語るように！！」と言われた亡森繁久彌さんの言葉が好きです。60歳を過ぎた頃よりハスキーな声がさらに悪化し、何とかしたいと、大阪に男声合唱団はないものかと探してたどり着いたのが「鼻」でした。団員のみなさんの歌声は元気で、伸びやかで、パワーを頂いております。私の趣味はテニス・旅行・バイクツーリング・書道などやっております。反戦歌は若い頃から好きで、マレーネディートリッヒの力強い歌い方の「リリーマルレーン」「花はどこへ行った」などは胸が痛みます。労働歌では、ジョーンバエズの「ジョーヒル」「We shall overcome」が懐かしいです。ジャンルは、歌謡曲・フォーク・シャンソン・カンツォーネ・フォルクローレなどが好きです。こんな私ですが、皆様のご指導・ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

(2) 第9回団内コンサートについて

8月11日(日)13:00～ねむかホールで予定されています。

- ①「エントリー用紙」の提出期限は6月16日(日)です。出演予定者はピアノ伴奏楽譜を添えて各パート担当まで提出してください。(千秋教室の生徒は楽譜は不要です。)
- ②団内コンサートについてのご質問等は世話役までお願いします。

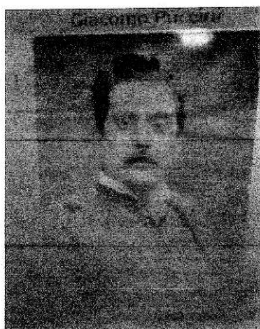
(3) 千秋さんからの投稿！

的弱者や貧困者の感情に寄り添って彼らを励ましていく。彼自作の名曲である。そして6曲目に千秋氏が歌いきった感動の一曲を迎えた。プッチーニ「オペラ」の第三幕でのアリア「星は光りぬ」の絶唱であった。これはトスカの恋人カヴァラドッシが警視總監の謀略によって処刑される前、牢獄でトスカに別れの手紙を書きながら歌う。悲愴なクライマックスの場面である。

そしてプッチーニと言えば日本人には馴染み深いオペラの名曲『蝶々夫人』がある。その劇中の「ある晴れた日」の歌が涙を誘う。

このオペラでは現地妻として遊び相手にされ捨てられ自殺した日本女性への痛切な同情がテーマとなっている。『蝶々夫人』の悲しみが見る者の胸を打つのである。

さらに中国の奢れる美姫の物語『トゥワン ドット』なるオペラの中の「誰も寝てはならぬ」は荒川静香がオリエンティックでこの曲で滑って金メダルを取ったことで知られている。



(プッチーニ)

つづく

(アメリカ)老人日記

立花さだお

サダオは団塊世代のトップランナーである。大阪市のアメリカ団地に住んでいる老人なのでそれを題名にした。

2019年2月22日(金)

夜六時半から『千秋昌弘&男声合唱団(鼻)』のコンサートに行った。なんか長い名前のコンサートである。独唱の千秋氏は『流星群』の先登同人である。会場の『いずみホール』は学研都市線「京橋駅」で降りて南へ徒歩十分程のホテルニューオータニの東隣にある。開演15分前にサダオは会場に着いた。すでに夕陽は濃くなっていた。二階の入口付近で『流星群』の同人で旧友の田中都夫氏と一、三年ぶりにバッタリ出会った。

懐かしかったので彼に明日、サークルの月例会後に一杯飲もうと一言伝えて私は二階の指定席に座った。この席はバルコニーの席で正面が舞台斜めになるので首をやや振って見なければならなかった。

開演前にコンサートのプログラムを見ると第2部が「千秋昌弘リサイタル」となっていて彼は8曲ソロで歌う予定になっていた。

第2部が始まると千秋氏は艶のある魅力的なトップテナーで朗々と歌い始めた。満75才とはとても思えない声量である。彼の白い舞台衣装もそれなりに映えていた。

「父ちゃんのためならエンヤコラ  
「母ちゃんのためならエンヤコラ  
「もひとつおまげにエンヤコラ  
\*\*\*\*\*

2曲目に歌った美輪明宏の『ヨイトマケの唄』はやはり泣ける歌詞である。知られているように美輪明宏は性的少数者の魁(さきがけ)である。さすがにこの歌詞は社会